

ゆるらぎ
よよよよ

揺らぎから空気を読む、世界を知る

古くから日本に存在した「場の雰囲気を読む」という概念。「空気を読む」という言葉は、繊細な感覚や機微を掬い取る日本の文化が生んだものであり、和の心の表れである。

かつてのように全身の感覚を研ぎ澄ませて世界を詠むことはなくなっている現代社会において、その存在をほかのものに変換して強調してみせることで改めて認識させ、感じる喜び、和の心呼び起こす。

今回の設計においては、「空気」を「空間」と解釈し、「簾」や「暖簾」から得た手法でその実現を目指す。また、いろいろな場面において幅広く効果を生むようにした。

「簾」、「暖簾」の性質

1. 揺れにより風や人の存在を視覚的に確認できる媒体となる
2. 簾の竹がこすれる音により、聴覚的に風や人の存在を確認できる媒体となる
3. 取り付けることで空間を分け、くぐった先に異なる空気を感じられる
4. 日よけ
5. 目隠しとして他人との接触を避けながらも、店の看板の役割など人が集まる場所としての性質をもつ

人のたまり場（札幌駅南口構内）
待ち合わせ場所に存在する象徴物として作用